



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園 緒方中学校 学校だより

青雲の大志

令和6年8月21日

NO.53 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

平和集会



「平和」を祈り、考える

8月6日は全校生徒が登校し、原子爆弾の恐ろしさや平和の尊さについて考えました。

79年前、ヒロシマに原子爆弾が投下された時刻、8時15分に黙とうをしたのち、松井市長の平和宣言、子ども代表の「平和への誓い」をテレビで視聴しました。各学年で平和授業をした後は、9年生が企画・運営した平和集会です。

今年の平和集会では、「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんにスポットをあてました。映像や朗読「海をわたった折り鶴」を通し、短くも懸命に生きた禎子さんの生涯と、彼女を取り巻く家族や友人の願い、そして、禎子さんが折り鶴に込めた祈りが半世紀を経てニューヨーク同時多発テロの犠牲者に捧げられたことなどを、9年生が心を込めて伝えてくれました。

私からは、武力紛争の中にいる世界の子どもの現状を紹介し、ドラえもん「どっちも自分が正しいと思ってるよ、戦争なんてそんなもんだよ」という言葉をもとに、「正義」についてお話ししました。そのうえで生徒のみなさんに期待することとして、次の3点を示しました。

- ①歴史的・文化的・経済的背景等によって「異なる正義」が存在することを知ること
- ②「人の道」という観点から「正義」を考える癖をつけること
※ボランティア活動への積極的な参加や、無償の善意を示せる人に!
- ③対話ができる人、言葉の力を信じる人になること

感想

禎子さんは白血病に苦しみながらも折り鶴を折って、前向きに生きようとしてすごいなあと思いました。もし僕だったら、絶望で前向きに生きようとは思えないので、本当にすごいなあと思いました。現在、世界では約4億人の子どもたちが武力の脅威にさらされていて、戦闘員となっている子どももいるので恐ろしいなと思いました。今、僕にできることはあまりないけど、「学ぶこと」だと思うので、これからも学び続けたいです。(8年 土屋遼河さん)

僕が心に残ったことは、千羽、折り鶴を折っても願いが叶わなかったことが、かわいそうだなと思いました。これからも戦争について学んでいきたいです。(7年 吉良空さん)

禎子さんは病気と闘いながらも一生懸命に折り鶴を折って、すごいなあと思いました。禎子さんが亡くなってから友達が禎子さんのために何かしようと、「原爆の子の像」を建てたことはとてもいいなあと思いました。

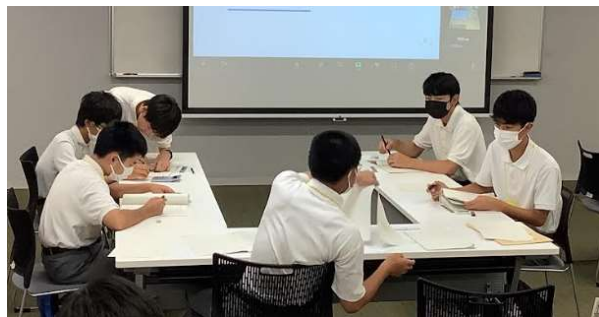
(8年 秋澤佑希さん)

僕は、校長先生や9年生の発表を聞いて、戦争は怖いと思いました。今、世界では4億人以上の子どもが武力にさらされていて、中には、子どもも戦闘員になっている人がいます。戦争はたくさんの方が命を落とし、建物や家族を失うので怖いと思いました。でも、禎子さんは病気と闘いながら一生懸命生きて強い人だと思えました。(7年 甲斐大翔さん)

「科学の甲子園」に挑戦

8月2日(金)に令和6年度「第12回科学の甲子園ジュニア」大分県1次予選が行われました。今年度は豊後大野市がサテライト会場になったこともあり、本校から初めて、8年生がチームをつくって参加しました。

「科学の甲子園ジュニア」は、科学好きの裾野を広げるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成することを目的にした大会です。理科、数学など複数分野の競技に協働して取り組みます。競技後は科学者の講演も聞きます。今年度は東京理科大学の川村康文教授が実験を伴いながらお話をしてくださいました。



問題は難しいものですが、チームの仲間と分担したり、考えを練り合ったりすることを通して、科学の面白さや考える楽しさを実感したり、科学と実生活とのつながりに気づいたりすることができたのではないかと思います。2次予選まで進めば、「ものづくり」が課題です。